

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

5

昭和11

一六〇六八

暗

伯林

本省 八月廿三日前着

歐

有田外務大臣

武者小路大使

第二〇一號

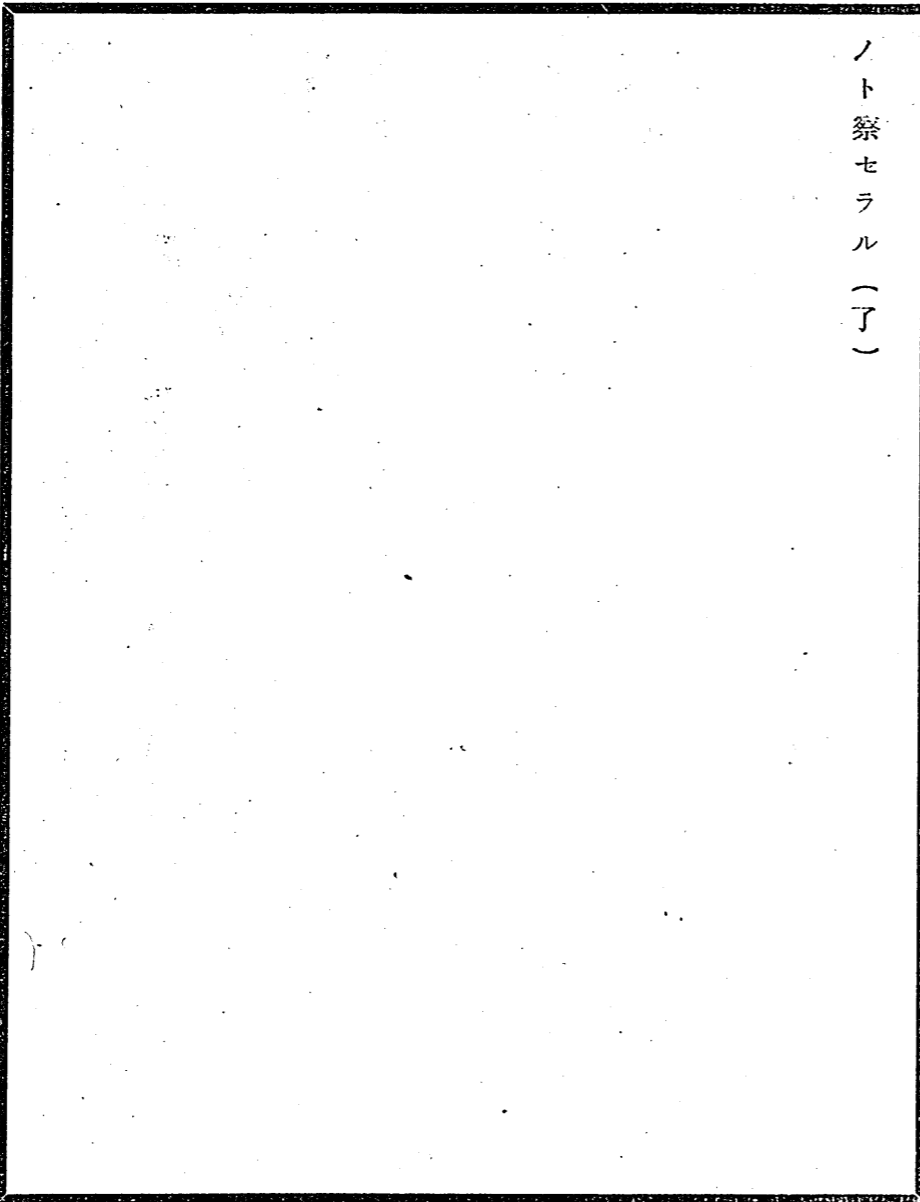
半官通信ニ依レハ在蘇獨大使及在西獨代理大使ハ各任國ニ於ケル煽動的且抽象的反獨放送宣傳ニ對シ當該政府ニ嚴重ナル抗議ヲ提出セ

ル趣ナリ
惟フニ從來獨及蘇兩國ニ於テ相互反對宣傳ヲ爲シ居リタルハ事實ナルモ公式ニ抗議ノ形式ヲ執ルコトナカリシカ今回獨政府力此ノ舉ニ出テタルハ漸次獨逸ノ國際的地位ノ成長シ來レルニ鑑ミ今次西班牙事件ニ付テ世界ノ反共產的傾向乃至輿論ノ喚起ヲ企圖セントスルモ

送送濟

外務省

ノト察セラル(了)



外務省

蘇獨外務大臣

S

120034

120

129

S

120034

119

128

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

蘇、独外交に付信書

昭和11 一六四四〇 略

莫斯科

本 省 八月廿九日前着

9.1

情、歐

有田外務大臣

酒匂代理大使

第六三二號

往電第六二八號ニ關シ

獨逸ニ於ケル蘇聯凶作説ハ著シク蘇側ヲ刺戟シタルモノノ如ク二十
八日ノ「イズヴェスチヤ」、「ブラウダ」トモ社説ヲ掲ケ頗ル激越
ナル口調ヲ以テ「ファシスト」ノ本件宣傳ヲ非難攻撃シ農作不良ニ
伴フ叛亂説ヲ打消シタル上「ウクライナ」ノ如キハ客年ヨリモ遙ニ
豊作ナリ「ファシスト」側ノ斯ル反蘇宣傳ノ裏面ニハ常ニ自國ニ於
ケル食料品節約ノ對内準備工作ト何等カ對外積極手段ヲ執ルノ魂膽

ヲ藏スルモノナリト述ヘ「ヒトラ」新聞ノ此ノ種態度ヲ警戒スル
ノ必要アルコトヲ論ス（了）

外務省

外務省

S

120034

122

131

S

120034

121

130

原書A.6.8.0.15
 独逸内政関係雑纂
 首相外相演説関係
 二五

分類A門2類0項0日/R 1

昭和11 一七六七— 暗 巴里 十五日發
 本省 九月十五日夜着
 有田外務大臣 佐藤大使
 第四五六號
 「ニユルベルグ」ニ於ケル「ヒトラー」其ノ他ノ演説殊ニ其ノ蘇聯
 邦攻撃ハ當國朝野ノ注意ヲ喚起シ居ル處新聞論說ノ代表的ナルモノ
 ヲ特情トシテ電報スヘキニ付特ニ御注意請フ（了）

外務省

11.6 S 120034 123

132

原書

原書A.6.8.0.15
 独逸内政関係雑纂
 首相外相演説関係
 二五

寫

問題項目

昭和11 一七七五— 平 本省 九月十六日後着
 有田外務大臣 佐藤大使
 特情 巴里第五六號
 「ニユルベルグ」ニ開催サレタ第八回「ナチス」黨大會ニ於ケル
 「ヒットラー」總統其ノ他「ナチス」領袖ノ演説ニ對シ巴里諸紙ハ
 左ノ如ク論シテ居ル。
 △十日ノ「ウーヴル」紙ハ曰ク
 「獨逸政府ノ意向ハ「トロー」、「カメルーン」、中央阿弗利加
 等舊獨逸植民地ノ返還ヲ要求スルニアルラシイカ佛國政府トシテハ
 獨逸政府カ平和ノ保障ヲ與ヘルコトヲ條件ニ「トロー」及「カメ
 ルーン」ノ返還ヲ考慮スルコトカ出來ヨウ」
 △十三日ノ「タン」紙ハ
 「再軍備ヲ完了シタ獨逸政府ハ共產黨並ニ「ボルシェヴィキー」ニ
 對スル徹底的鬭争ニ乗出シタ。獨逸政府ハ「コミンテルン」ノ活動

独逸内政

外務省

11.9 S 120034 124

133

ト蘇聯邦政府トノ間ニ何等ノ區別モ設ケヌカラ此ノ鬭争ハ事實上「ナチズム」ト共產主義トノ二個ノ信條ニ藉口シタ獨逸ト蘇聯邦トノ鬭争ニ歸着スル、獨逸政府ハ歐洲ニ於ケル共產主義ノ勢力伸長ヲ蘇聯邦ノ責任ニ歸シ右勢力ノ伸長ヲ以テ歐洲大陸殊ニ獨逸ノ生存ヲ脅威スルモノト爲シ自ラ反「ボルシェヴィキ」ヲ以テ自認シテ居ル斯クテ獨逸政府ハ絶大ナ武力ヲ擁シ東方カラ迫ル「ボルシェヴィキ」ノ脅威ニ對スル最高ノ防壁タト誇稱シ歐洲ヲ共產主義禍カラ救出スルコトコソ自國ノ神聖ヲ使命タト稱シテ居ル、而シテ「ナチズム」ノ秩序ト共產主義ノ無秩序トヲ對比シ西班牙ノ内亂ヲ引例シテ「ナチズム」ハ獨逸ニ復興ヲ齎シタカ共產主義ニ感染スル國家ハ必然的ニ無政府状態ニ陥ラウト説イタ、斯ク威嚇的言辭ヲ弄スルコトハ獨逸政府カ政府的ニ利用セントスル弱小國ヲ動カシ之ヲ自國側ニ引付ケル上ニ有效且巧妙ナ術策テアル、獨逸政府ノ蘇聯邦攻撃カ國際政局ニ及ホスヘキ影響如何ハ大イニ懸念スヘキモノカアル、何レニ

外務省

11.9 S 120034 125

134

セヨ斯クノ如キ態度ハ今秋行ハルヘキ國際交渉ヲ阻害スルモノタ現ニ最近英國政府カ十月第三週ニ「ロカルノ」會議ヲ召集スル件ニ付關係各國ノ意嚮ヲ打診シタ處獨逸政府ハ會議ノ開催延期ヲ希望シ且現狀ノ下ニ於テ蘇聯邦政府ト交渉スルコトヲ拒絕シタトノ報道カアリ英國官邊ニハ之ヲ以テ獨逸政府カ蘇聯邦トノ外交關係ヲ斷絶スル意圖タト論シ或ハ少クトモ蘇聯邦ノ参加スヘキ「ロカルノ」會議ヲ不可能ナラシメントスル意思ノ反映テハナイカト論スル向モアル、夫レハ兎モ角「ニユルンベルグ」大會ニ於ケル「ナチズム」領袖ノ演說ハ國際政局ノ上ニ更ニ大キナ不安ヲ加ヘルモノタト

ト論シタ

△「エコー・ド・パリ」紙
「ピトラー」總統ハ一九三四年七月蘇聯邦政府カ佛國政府ノ提案ニ係ル東北「バクト」同意スルニ及ヒ始メテ從來ノ協調的態度ヲ放棄シ蘇聯邦對ノ舉ニ出タ、「ニユルンベルグ」大會ニ於ケル蘇聯邦政

外務省

11.9 S 120034 126

135

撃ハ「ナチス」特有ノ日和見主義ト征服慾トヲ示スモノニ他ナラズ
△「ファイガロ」紙
「ヒットラー」總統ノ演説ハ矛盾ニ充チテ居ル、一方獨逸ハ武力ヲ
充實シ國內ノ「ボルシェヴィズム」ヲ征服シテ最早天下ニ悉ルルモ
ノナシト云ヒ乍ラ他方獨逸ハ不斷ニ不安ヲ感スル理由カアルノタ、
「ヒットラー」總統ハ獨逸ヲ脅カヌ外敵ニ對シテハ何時ニテモ之ヲ
打破スル用意アリト云ヒ又一方自己ノ反共產主義的立場カ純「イデ
オロギ」的ナ利己的ナモノテナイ所以ヲ強調シ乍ラ他方「ウクラ
イナ」、西比利亞ノ廣野ニ垂涎シテ居ル、然シ彼ノ演説ニ理論ノ一
貫ヲ望ムノハ無理テアラウ、蓋シ彼ノ演説ハ對內的ニ又對外的ニ意
圖サレタ所ヲ其ノ儘現出ヤントスルモノタ、即チ對內的ニハ「ナチ
ズム」ノ成績ヲ讀ヘ國民ノ信頼ヲ作興シ對外的ニハ歐洲大陸ニ對シ
獨逸ノ武力ヲ振擧シ革命ニ對スル秩序ノ「チャムピオン」ダラント
スルモノテアル、何レニセヨ「ニュルンベルグ」大會テ獨逸ハ其ノ

外務省

11.9 S 120034 127

136

統一ト其ノ武力トヲ誇示シタ、逆説的ニ云ヘハ此ノ統一ヲ可能ナラ
シメタノハ共產主義テアツテ共產主義者コソ眞ニ「ヒットラー」總
統ノ最良ノ援助者ト云フヘキタ
尙「ジュルナール」紙ハ獨逸ノ蘇聯攻撃ト「ロカルノ」會議ノ招集
延期希望トヲ結付ケ右ハ「ヒットラー」總統カ「ロカルノ」會議前
佛國政府ヲシテ蘇聯邦ト手ヲ斷タシメントスル魂膽カラ出タモノト
觀測シテ居ル。

は(イ)

137

外務省

11.9 S 120034 128

昭和三十八年九月十七日
有田外務大臣
第二一三號ノ一

昭和三十一年七月九日 平 伯林
本省 九月十七日 發
十六日後發
武者小路大使

第八回「ナチス」大會ハ八日ヨリ十四日迄「ニュルンベルグ」ニ於テ開催「ナチス」各団体（特ニ最後ニ *Wannsee* ヲ加ヘタルコト昨年通り）ノ参加數十萬ニ達シ「ヒ」總統ハ九日其ノ施政方針ト見ルヘキ宣言書ヲ發表シ「バイエルン」總理兼黨首席「ワグネル」ニ代讀セシメタルカ右ハ前ニ「ナチス」政權過去四箇年各方面ニ於ケル実績ヲ擧ケタル後經濟問題特ニ原料自給及植民地要求問題ニ言及シ新ニ四箇年計畫ヲ樹テ今後四年間ニ全力ヲ以テ之カ達成ヲ期スル旨ヲ述ヘ而モ原料問題以外植民地問題解決ニ關スル要求ヲ拋棄セサル旨（但シ地域、時期、手段等ノ具体的案ヲ示サス）公式ニ宣言セル後共產主義ノ慘禍ヲ擧ケ之カ打倒ニ全力ヲ傾到スヘント絶叫シ

外務省

11.6 120034 129

138

タルカ豫想ニ反シ一般外交問題ニ言及セサリシハ注意ニ値ス尙同總統ハ十日ノ大會分科會議及閉會式ニ於ケル演說ニ於テ又「ゲツベルス」及「ナチス」教育部長「ローゼンベルグ」モ大會中共産主義ノ毒禍ヲ詳説シ加フルニ「コミンテルン」即チ勞農政府ナリト言ヒ之カ打倒ノ爲全世界協力一致スヘキ旨ヲ訴ヘタルカ一部豫想ノ如ク前年ノ例ニ依リ特別議會開催サレス且猶太人問題ハ夫レ自体目標トスルヲ避ケ（續ク）

外務省

11.6 120034 130

139

寫

昭和11 一七七九五 平 伯林 十六日後發
本省 九月十七日前着

有田外務大臣 武者小路大使

第二一三號ノ二

之ヲ共產主義ニ關聯セシメテ蘇聯要路者九割八分ハ猶太人ナリトシ
兩者ヲ同一視シテ攻撃セルハ從來ノ猶太人問題ノ一轉化ト目セラル
要スルニ右宣言及演說ハ「ナチス」政權獲得ノ理由ニ鑑較對内問題
トシテモ反猶太人、共產主義打倒、植民地要求及經濟問題解決ヲ政
綱トシテ高調シ一般國民ノ政府信賴ヲ増シ對外的ニハ獨逸ノ立場ヲ
宣傳スルノ要アリタルニ依ルモノナリ(了)

は(3)

外務省

11.6

S

120034

131

140

寫

昭和11 一七八〇三 暗 伯林 十六日後發
本省 九月十七日前着

有田外務大臣 武者小路大使

第二一四號ノ一

曩ニ申進ノ進リ「ニユルンベルグ」ニ於ケル「ナチス」黨大會ニ招
待ヲ受ケ十五日歸還シタルカ今次大會カ徹頭徹尾共產打倒問題ニ終
始セルハ
「西班牙ノ慘劇等ヲ控ヘテ共產打倒ヲ呼號スルニ最好機ナリト考ヘ
タル爲ナルハ勿論ナルモ
「之ニ依リ蘇聯當路者ノ九割八分ヲ占メ居ル猶太人ニ痛棒ヲ加ヘ」
「ナチス」ノ猶太人排撃ヲ理由付ケ
「英佛カ蘇聯ノ平和宣傳ニ同情ヲ寄スルコトヲ戒メ又他方蘇佛關係
ヲ冷却セシメ且來ルヘキ「ロカルノ」會議ニ蘇邦招致ノ不當ナル
ヲ示シ

は(3)

外務省

11.6

S

120034

132

141

四場合ニ依リ反共産「ブロック」組成ノ機運ヲ醸成セントシタルモ
ノナルヘキ處

之カ影響トシテ一時對蘇關係ノ惡化スヘキコト勿論ナルヘキモ大會
中大使ノ會談セル獨逸當局側ノ意見ヲ綜合スルニ獨トシテ今日蘇ト
兵ヲ交フルカ如キコトハ考ヘ居ラス蘇モ亦對獨攻撃ヲ敢テスル管ナ
ク從テ要ハ從來各國共温顔ヲ以テ接シ居リタル爲却テツケ上リ來レ
ル觀アル蘇聯ノ行動ニ對シ痛棒ヲ加ヘ以テ共産宣傳並ニ隣國ニ對ス
ル進撃的態度ヲモ強ク之ヲ排撃スルコトヲ明カニセルニ過キス（續
ク）

外務省

11.6 S 120034 133

142

昭和 一七八〇四 暗 伯林 十六日後發
有田外務大臣 本省 九月十七日前着
武者小路大使

第二二四號ノ二
尙早晚歐洲各國ハ獨逸カ逸早く赤化防止ヲ呼籲セルヲ舉ツテ徳トス
ヘク又蘇聯ノ横暴ナル態度モ多少ハ是正セラレヘキモノト確信シ居
レリ

因ニ本大會參列ノ大公使（英、米、佛、白、蘇等缺席）ハ何レモ赤
化防止ノ急務ヲ認メ獨ノ態度ヲ是ナリトスル者ノミニテ殊ニ南米諸
國ノ大公使ノ如キハ是等諸國カ今日未タ蘇聯ト國交ヲ恢復シ居ラサ
ルコトヲ誇リタル他面土耳其大使、羅馬尼公使ハ夫々蘇聯ト政治的
ニハ接近シ居ルモ赤化運動ハ絕對ニ防止シ居ル旨頻リニ辯解シ居タ
リ（小協商國ハ今回初メテ參列セリ）
英、露、佛、白、波ヘ暗送セリ

外務省

11.6 S 120034 134

145

歐亞局
機密公第一三三號

昭和十一年九月十六日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 有田 八郎 殿

獨蘇關係ニ關スル件

永年當地ニ支店ヲ開設シ居タル獨逸「レバンテ」汽船會社ハ蘇側ノ條約不實施ノ爲メ今回一先ツ同支店ヲ閉鎖シ支配人ニ歸國ヲ命セリ同支配人ハ九月十六日當地發離任セリ
離任ニ先チ小官ニ挨拶ノ爲メ來訪セルカ平素懇意ノ間柄トテ獨蘇國交關係ニ關シ左ノ通り内話セリ時節柄注意スヘキモノト認ムルニ付何等御參考迄報告ス
本信寫送付先 在蘇大使、在獨大使



蘇俄外交關係雜覽
昭和十一年拾月拾六日接受

144

11/9/11

在オデッサ日本領事館

S 120034

135

記

「ニューロンベルグ」黨大會ニ於テ「ヒツトラ」初メ「ローゼンベルグ」「ゲツベルス」「フリツケ」諸氏ハ共產主義ノ危險ナルコトヲ例ニナク猛烈ナル言語ニテ強調セルカ更ニ一般民衆ニ之ヲ徹底セシムル爲メ移動展覽會ヲ各地ニ巡回セシメ居レリ
共產主義撲滅運動ハ新聞紙上ニ現ハル、ヨリモ一層實質ニ於テ強ク且深刻ナルモノアリ
斯カル状態ナルヲ以テ今後蘇側ノ出方如何ニヨリテハ或ハ國交斷絶モ獨逸側ニ於テ敢テ辭セサル覺悟アルモノト思ハル
現ニ最近「レニングラド」獨總領事「ゾンマー」氏歸朝ヲ命セラレタルヲ以テ蘇聯邦内ニ於テ館長タル領事ノ殘存スルハ「キエフ」ノミニシテ其他ハ約一年ニ亘リ全部代理ナリ
勿論右理由トシテハ外務省ノ人線ノ都合竝ニ經費節約ノ關係等ナキニ非ルモ兩國國交ノ關係現時ノ如クナルニ於テハ茲暫ク蘇側ノ出方ヲ監視シ居ルモノナルヘシ

在オデッサ日本領事館

S 120034

136

145

編者附書
原書
8.0.
1-5

Adio. 0. 9/1

外務省

昭和11 一七八七八 暗 伯林 十七日後發
本省 九月十八日前着
有田外務大臣
武者小路大使
第二一六號(至急、極秘)
往電第二一四號極秘トセラレ度シ(了)

11.6
S 120034 138

147

我汽船會社ナトモ蘇獨間條約ニ基キ黑海ノ蘇港ニ來ル社船ニハ貨物
ヲ與フヘキ筈ナルニ何レモ自國船ニ積載シ我社船ニ付テハ言ヲ左右
ニ托シ最近一年以上少シモ實行セサルニヨリ一先ツ當地代理店ヲ閉
鎖ノ形ヲトリ歸獨後本社ト協議ノ上何トカ根本的解決ノ方法ヲトル
コト、ナリタル次第ナリ云々

(以上)

在オデッサ日本領事館

S 120034 137

146

原書ハ
16.8.10.15
独逸内政下係種皇
首相外相海軍大臣
ニ在リ

寫

昭和11 一七九六二 平

倫敦 十八日後發
本省 九月十八日夜着

有田外務大臣

吉田大使

第五二一號

「ニューレンベルグ」大會ニ於ケル「ヒトラー」演說ニ關スル新聞
論調ヲ綜合スルニ

植民地要求

獨要望ニ同情的ナル「ガーディアン」スラ「ヒ」ハ植民地ノ重要
性ヲ過大視ストシ「タイムズ」ハ輿論ハ理論上同情的ナリトスル
モ一般的問題解決ノ關係ニ於テ或ハ獨力政策ノ具トシテノ戰爭ヲ
事實上拋棄スルニアラサレハ本件考慮ヲ欲セサルヘシ、目下戰爭
ノ空氣ハ獨ニ依リ醸成セラレツツアリ今日ノ讓歩ハ明日ノヨリ大
ナル要求提出トナルノミナルヘシト一般ニ非同情的ナリ

ニ蘇聯攻撃ニ關シテモ大体之ヲ承認セス自由勞働系ハ「ヒ」ハ蘇ヲ

外務省

S

120034

139

148

除外シテ歐洲安定ノ機會ナキヲ理解スヘク右ニ獨ノ參加ナク孤立
ニ陥ルトモ夫レハ自ラ招ケルコトナリト論シ「タイムズ」モ「ヒ
」總統ノ佛蘇ニ與ヘタル懸念延イテ相互援助決意ヲ固カラシメタ
ルハ全ク了解シ得ル所ニテ獨ニシテ英カ「フアシズム」ノ爲共産
主義排撃支援ノ用意アリト想像セハ夫レハ英輿論ヲ誤解セルモノ
ナリトス

尙大會後大會ハ獨ノ現精神コソ根底ニ（於テ）歐洲平和ノ脅威タ
ルヲ明カニセリトスルモノアル一方「クロニクル」ハ大會ハ大体
佛蘇協定打壞ヲ目的トシテ却テ佛蘇關係ヲ密接ナラシムルノ心理
的誤謬ヲ犯シタリ然レ共他方四年計畫ナル建設的方面ヲ默過スヘ
カラス蓋シ右成功ニハ平和ヲ必須トシ其ノ遂行ハ隣國ノ平和ヲ意
味スルコトトナリ且其ノ間ニ恒久的了解達成モ可能ナレハナリハ
「テレグラフ」ト四年計畫ニ重點ヲ置クモノモアリ又大會ノ教
訓トシテ歐洲現狀ハ結局英ニモ責任アル所ナレハ英ハ宜シク門戸

外務省

S

120034

140

149

開放政策復歸、英植民地ノ委任統治化等ノ寄與ヲ爲スヘシト自責
的ナルモノモアリ（「ガーディアン」）
佛、獨、蘇ニ郵送セリ

外務省

11.9
S 120034 141

はし
150

REEL No. A-0341

アジア歴史資料センター

第二課

歐亞局長
機密公第一三五號

昭和十一年九月十九日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 有出 八郎 殿

獨領事館ニ於ケル獨蘇關係ニ關スル談話ニ
關スル件

他用ニテ當地獨逸領事代理ヲ往訪セル處談偶「ニユルンベルグ」黨大會ニ及ヒタルカ同領事代理ハ今回ノ大會ニ於テ政府大官及黨有力者ノ異常ナル反共產主義、反猶太主義ニ關スル演說ハ諸外國ニ於テ驚異ノ眼ヲ以テ眺メ居ル模様ナルカ現今ノ蘇聯邦ハ成程軍備特ニ飛行機方面ニ多大ノ費用ヲ投シ居ルモ「ジノビエフ」事件ニテ國內ノ政狀多少トモ安定ヲ缺キ更ニ國民ノ生活不安ニシテ大多數ノ民衆ハ數年前ト同シク共產主義打破竝ニ苦境脱出ノ爲メ戰爭ヲ希望シ居ル

在オデッサ日本領事館

昭和十一年拾月拾六日接受



151

120034 142

コトヲ當局ニ於テモ熟知セルノミナラス戰時ニ於ケル莫大ナル資金ノ出所ニ苦シマサル可ラサルカ爲メ進ンテ外國ト事ヲ構フルコトハ差當リ如何ナル場合ニテモナシ得サル所ナルヘシ
斯カル次第ナルヲ以テ獨逸トシテハ此際云ハント欲スル所ヲ忌憚ナク而モ極メテ卒直ニ表現セルノミナリ云々
右不取敢報告ス
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

120034 143

152

昭和11年10月27日
有田外務大臣
第一九三號

昭和11 一八八九九 平 壽府
本省 九月廿九日前着

横山局長代理兼總領事

二十八日總會ニ於テ任期終了セル亞爾然丁、濠洲、丁抹ノ三非常任理事國ノ後任選舉ヲ行ヒ「ポリヴィア」、瑞典、新西蘭當選ス（理事國増加問題ハ目下第一委員會ニテ審議中）
引續キ一般討議ニ於テ匈牙利、蘇聯、丁抹三國代表ノ演說アリ「リトヴィノフ」ハ「ニユレンベルグ」大會ノ「ヒットラー」ニ答へ持論ヲ強調セリ（要領追電ス）（了）

外務省

S 120034 144

153

寫

昭和11年10月27日
有田外務大臣
第二二六號

昭和11 二〇一五一 暗 柏林
本省 十月十三日前着

武者小路大使

往電第二二五號ノ會談ノ際

一本使ヨリ「ロカルノ」條約改訂會議ニ對スル獨逸側其ノ後ノ態度ニ付質シタルニ外相ハ會議參加ハ既ニ主義上受諾セル所ナルモ最近英國側ヨリノ公文ニ對シ獨逸側トシテハ更ニ會議議事ノ範圍等ヲ質ス意味ノ回答ヲ發スル爲目下立案中ニテ會議開催迄ニハ今後尙通常ノ外交手段ニ依ル數次ノ往復行ハルヘント思考セラレ何レニスルモ要ハ問題ノ範圍ヲ西歐ニ限り東歐問題ハ除外シ度キ意嚮ナリト語レリ
ニ對伊問題ニ關シ外相ハ「チアノ」伊外相トノ會見ハ豫テヨリ自分ノ希望ニシテ「オリンピック」中來伯ノ豫定カ延々ニナリ居リタ

外務省

S 120034 145

154

其次第ナルカ愈本月二十日來獨ノ運トナレリ獨伊二國ハ共ニ非共
 産主義國ナル點ニ於テ其ノ接近ノ基礎ヲ有スルモノト認ムト語レ
 リ
 對蘇聯邦關係ニ付本使ヨリ「ニューロンベルグ」ニ於ケル獨逸側
 ヨリノ盛ナル攻撃ニ對シ蘇側ヨリ獨逸ニ對シ何等抗議カマシキコ
 トモ申出ナカリシ様承知スル處其ノ原因那邊ニ在リト考ヘラルル
 ヤト尋ネタル處外相ハ其ノ點ハ自分モ不思議ニ思ヒ居ル次第ニテ
 實ハ過般蘇大使次官ニ面會セル際モ本件ニ付テハ全然言及セザリ
 シ程ナリ右蘇聯邦ノ態度ハ要スルニ同國ノ内政最近ノ狀態即チ「
 リトヴィノフ」一派ト「ラデツク」一派トノ抗争其ノ他ノ爲蘇聯
 邦内部ノ安定性ヲ缺キ居ル事情ニ基クモノニアラスヤト想像スト
 語リタリ

・在歐各大使（除土）蘭、瑞西、波蘭、致國、埃へ暗送セリ

外務省

11.9 S 120034 146

155

極秘

電信課長

大臣 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

蘇聯外交大臣秘書長

昭和11 二一〇七四 暗 伯林 廿四日後發 本省十月廿五日前着 歐

有田外務大臣 武者小路大使

第二四一號(極秘扱)

二十三日「リッペントロップ」ト會談ノ際同大使ハ獨逸トシテハ英國ヲシテ對蘇關係ノ重大性ヲ感知セシムル様努力スルト同時ニ大陸諸國ノ反共產共同工作ノ爲必要ナル方策ヲ講スヘク但シ其ノ努力ハ波蘭、伊國及西班牙ヲ勸奨スルコトニ置キ度キ考ナリト内話シ次テ本使ヨリ過般Nuremberg 黨大會ニ於テハ蘇聯邦ニ對シ痛烈ナル攻撃行ハレタル次第ナルカ其ノ後ニ於テモ獨逸ノ對蘇通商乃至經濟關係等ハ何等支障ナク運行シ居ルヤト尋ネタルニ對シ右ハ全ク平常ト異ラ

外務省

S 120034 147

56

ス大體蘇カ過般ノ大會ニ於ケル攻撃ニ對シ何等抗議等ノ措置ニ出テサリシハ一ニ其ノ内政狀態ノ不安定ニ依ルモノナリト認ムトシテ往電第二二六號「ノ」外相ト同様ノ結論ヲ下シタル上自分ノ有スル情報ニ依レハ目下「スターリン」ハ相當重態ナルモノノ如ク尙現在ノ狀態ニテハ蘇ニ對シテハ強硬ナル態度ヲ以テ臨ムコト最效果のナリト思考スル旨ヲ述フ
在歐洲各大使、壽府へ暗送セリ

外務省

S 120034 148

157

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

記録簿 独外交子係雜目録

昭和11 二二五六四 平 伯林 十四日後發 歐、情
本省 十一月十五日前着

有田外務大臣 武者小路大使

第二六〇號

莫斯科在住獨逸人五名反蘇行爲ノ嫌疑ヲ以テ十一日逮捕セラレタルニ對シ獨逸政府ハ直ニ在蘇獨逸大使ヲシテ抗議セシメタル趣ノ處十三日當國外交評論ハ今次逮捕事件ハ蘇聯カ反對宣傳ニ逆用セントスル常套手段ニシテ恰モ西國事件其ノ他最近各國ニ於テ發覺セラルル「コミンテルン」ノ陰謀ヲ隱蔽セントスル苦肉策ナリト認メサルヲ得ス殊ニ今次逮捕セラレタル獨逸人ハ其ノ職業上何等政治的關心ヲ有セサルハ明白ナリト攻撃シ居レリ

外務省

S 120034 149

在歐各大使へ郵送セリ

外務省

S 120034 150

編者附書

原書頁一六〇頁
蘇聯邦内政天作
推定

寫

昭和11 二二七四四 平 伯林 十七日後發
本省 十一月十八日前着
武者小路大使

有田外務大臣
第二六三號
往電第二六〇號ニ關シ

在蘇聯獨逸人ノ逮捕ハ其ノ後二十三名(莫斯科九、「レーニングラ
ード」十二、「ハリコフ」一、「ノボシビルスク」一)ニ達シタ
ル由ナルカD、N、B、ニ依レハ蘇政府ハ右ニ關スル在蘇獨官憲ト
ノ會見ヲ避ケ漸ク右ノ中十四名ノ氏名ト右適用刑法規定(密偵、暴
力行爲及反蘇行動組織ニ關スル罪)ヲ通報シ越シタルニ過キス右ニ
對シ獨側ハ全然之ヲ否定シ在蘇獨大使ヨリ更ニ嚴重ナル抗議ヲ提出
シタル趣ナリ
在歐各大使へ郵送セリ

外務省

S 120034 151

160

蘇独外交系原簿

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和11 二二九三〇 暗 莫斯科 十九日後發 歐、情
本省 十一月二十日前着

有田外務大臣
第八八四號
酒匂代理大使

本月初旬當地及「レーニンград」市ニ於テ多數ノ獨逸人逮捕セ
ラレタル趣獨逸其ノ他ノ外國新聞紙上ニ大々的ニ報道セラレ當國各
新聞モ十八日ニ至リ右獨逸人等ハ蘇聯邦内ニ於テ「ファシスト」團
體ヲ組織シ蘇聯人ヲ之ニ勸誘セントシテ「ファシスト」文書ヲ頒布
シ又密偵行爲ヲ爲シタル者ナルコト並ニ在蘇獨逸大使及參事官ハ「
リトヴィノフ」及「クレステンスキー」ニ對シ本事件ノ説明ヲ求ム
ルト共ニ抗議ヲ提出シタルカ蘇側ハ右事態ヲ説明シテ抗議ヲ拒否シ

外務省

S 120034 152

161

タル旨ノ「タス」發表ヲ掲載シタリ當地外交團ニ於テモ同事件ヲ頗ル重大視シ獨逸大使ノ引揚ヲ豫想スル者スラアリ依テ十九日他用來訪ノ獨逸參事官ニ對シ事件ノ真相ヲ尋ネタルニ右逮捕ハ六日開始セラレ漸次擴大シテ最近二十八名ニ及ヒ之ニ關聯シテ約百五十名ノ蘇聯人モ逮捕セラレタリ蘇側ハ逮捕理由ヲ密偵行爲其ノ他ノ犯罪事實アリタル爲ナリト説明シ居ルモ眞因判明セス兎ニ角重大事件ナリト言ヘルニ付本官ヨリ本件ニ關聯シ兩國國交ヲ危殆ナラシムルカ如キ惧アリト言フ者アルカ如何ニヤト問ヘルニ左程ノコトハナカルヘシト答ヘタリ

獨へ暗送セリ

外務省

S 120034 153

162

寫

原首、
16.5.0.1
ソソエト内政系係
雜首等ニ在リ

昭和11 二三〇四二 平 莫斯科 廿 日後發

本省 十一月廿一日前着

有田外務大臣

酒匂代理大使

第八八七號

廿日各紙發表ニ依レハ十九日一ノウオシビルスク市ニ於テ聯邦最高裁判所軍事部巡迴裁判ハ西部西比利亞(主トシテ「クズバス」中「ケメロヴォ」炭坑)ヲ舞臺トスル「トロツキー」派反革命陰謀事件ノ公判ヲ開始セリ被告九人中ニハ獨逸人囑託技師「ケメロヴォ」炭田技師長等ヲ含ミ辯護士合計三名ヲ附セラル被告達ハ「トロツキー」派ノ二大方針タル政治的「テロ」及經濟的妨害中專ラ後者ヲ目的トシ昨年中一味ノ結成行ハレ故意ニ炭坑ヲ瓦斯爆發セシメ之ヲ使不能ニ陥レントセリ之カ爲第一回ハ昨年十二月廿八日労働者二名死亡、第二回本年九月廿三日坑夫十名死亡、十四名重傷セリ事件ハ露西亞刑法第五十八條ノ第七項及十一項ニ該當ス本件ニ直接關係セ

外務省

S 120034 154

163

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人書 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和11 二三一四五 略 ノゾオ 廿一日後發 歐
 本省 十一月廿二日夜着

有田外務大臣 小柳領事

第三六號

莫斯科發閣下宛電報第八八七號ニ關シ

本件ニ付テハ十九日公開公判ヲ開始シ二十日及二十一日ノ當地機關
 紙ニモ其ノ審理經過ヲ發表シ居レルカ本件ハ本年九月二十三日「ケ
 メロオ」堅坑ノ瓦斯爆發事件ニ端ヲ發シ同時ニ同堅坑主任「ノスコ
 フ」、第二堅坑技師長「ベモホーノフ」以下六（脱）職務怠慢ノ廉
 ニ依リ拘禁セラレ其ノ後豫審ノ結果「トロツキー」派及反革命陰謀
 事件發覺シ同地中央堅坑技師長タリシ獨逸技師「シチクリング」モ

外務省

S 120034

156

165

外交信託課

ル他ノ三名ハ他ノ事件ニ依リ審理中ニシテ分離裁判トセラレタル趣
 ナリ
 「ノゾオ」ニ轉電セリ

外務省

S 120034

155

164

之ニ關係セルコト發覺本月三日拘禁セラレタルカ檢(事)ノ右陰謀事件ニ關スル論告及訊問ニ對シテハ被告何レモ一々之ヲ肯定一九二九年以來「トロツキズム」ヲ支持シ各聯絡ヲ取り地下運動ニ從來シ堅坑ノ破壊ニ依リ國力ヲ弱メ現政權ノ變革ヲ企圖セルコト及九月二十三日ノ爆發事件ハ故意ニ通風機ヲ破壊シ勞働者ヲ中毒致死セシメタル事實ヲ肯定シ居レリ

獨逸人技師ニ對スル訊問ハ非公開ニ行ハレタル趣ナルカ同人ハ檢(事)ノ訊問ニ對シ反革命一派ノ指導者トシテ反蘇工作ニ關スル指令ヲ與ヘタルコト、反蘇工作ニハ「ファシズム」有效ナルコト及右工作ニ關シテハ「ノヴァホ」駐在ノ外國一公務員ト聯絡アリタル旨(脱)居レリト言フ

外務省

166

157

S 120034

S

獨逸領事ノ談ニ依レハ同技師ハ客年十一月既ニ「ケメロオ」ヲ引揚ケ爾來當地金鑛局ニ勤務シ居リ温厚ノ紳士(四十七歳)ニシテ斯ノ如キ事實アリトハ首肯シ得ヌ同人拘禁ノ理由ハ大體猶太人ノ虛構誣告ニ依ルモノナルヘク同夫人靜養ノ爲高架索ニ向ケ出發後三日目ニ拘禁セラレタルハ正ニ其ノ間ノ事情ヲ物語ルモノナリト憤慨シ尙公務員トノ聯絡云々ニ付テハ在「キエフ」總領事「グロスコブ」ノ身邊ニ禍ナキヤヲ保シ難シト心痛シ居レリ

目下本件審理ヲ急キ判決ハ今明日中ニ下サルヘシト言フ

露ヘ轉電セリ

外務省

167

158

S 120034

S

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書

寫送先

訂正御通知

十一月廿二日着在「ノヴォ」小柳領事來電第三六號左記ノ通り御訂
正ヲ請フ

記

- 一、「ベセホーノフ」以下六（脱）職務怠慢、、、ヲ
- 「ベセホーノフ」以下六名規律違反職務怠慢、、、ト
- 二、地下運動ニ從事シ堅坑ノ破壊、、、ヲ
- 地下運動ニ從事シ重工業ノ破壊、、、ト
- 三、「同人拘禁ノ理由ハ大體猶太人ノ、、、ヲ
- 同人拘禁ノ理由ハ第二夫人（猶太人）ノ、、、ト訂正ス

獨逸外交 赤印 雜音

外務省

S

120034

159

168

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文部 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

A-2-0-0-9/R/1

訂正御通知

十一月廿二日着在「ノゾオ」小柳領事來電第三六號左記ノ通り御訂

正ヲ請フ

記

一、「ベセホーノフ」以下六（脱）職務怠慢、、、ヲ

「ベセホーノフ」以下六名規律違反職務怠慢、、、ト

二、地下運動ニ從事シ堅坑ノ破壊、、、ヲ

地下運動ニ從事シ重工業ノ破壊、、、ト

ハ大體猶太人ノ、、、ヲ

第二夫人（猶太人）ノ、、、ト訂正ス

信寫挿入先
門類
項目
日
號
6
50
00
9/R/1

獨逸外交信雜覽

外務省

S 12U034 159

168

情報部

普通第四九一號

昭和拾壹年十二月廿壹日

在ラトヴィア

臨時代理後 佐久間

信

大臣 相田八郎 殿

蘇聯に於て多岐に亘る其の他、ソ連に關スルリガシエ、

ルニシヤウ紙評論、件

本件に關シ本月十四日リガシエに於テヤウ紙に週評論中ニ於テ左ノ趣旨ヲ論セリ

今次莫斯科其他ニ於ケル多數外國人ノ逮捕ハ全歐州ニ於テ甚大ナルセシエニシヨシラ惹起セリ 多數ノ日プロツキヤール

在ラトヴィア日本公使館

歐亞局

第一號

昭和五年十二月八日 接受

情 12.1.15 庶

169

S 129034 160

170

派及從前多分トロツキニ接近シ居タリシナルキ外國人共之佳
 常員ノ逮捕ソ其ノ自体ニ於テ何事特別ニ注目ノ價値ナカ
 ルニ然ルニテ同ハ如何ニシテモフトロツキニ派オツホシニヨリトハ何
 等ノ困難ヲモ持テ得ル外國人カ逮捕セラレタリ 蘇聯ニ
 於テ今尚存スル唯一ノ独逸側ニソニセシヨシラ、又配人、在
 莫斯科科独逸大使館法律顧問、同大使館醫師、莫
 斯科ニ於ケル最後ノ新教會牧師並ニ他ノ數名、独
 逸國民モ亦逮捕セラレ捕囚又使館參事官一獨
 逸大使自身ハ高加索ニテ商務旅行ヨリ莫斯科科へ
 歸還ノ途ニ中ニ在リ 一嚴重ナル抗議ニモ
 拘ラス未タ釈放セラレルニ至ラザルナリ 彼等ハ公的ニハ
 宣訊ナルハ分歧ヲ有スル、大ニ網ヲ組織セル康ニ依リ
 評信セラレ且ツ夕日報通ニ依リハ該逮捕ハ所謂フトロ

在ラトヴィア日本公使館

S 120034 161

情報部

A-20000/R1

普通第九二號

昭和拾壹年十二月廿壹日

在ラトヴィア

臨時代理後 佐久間

信



外務大臣 伯田八郎 殿

蘇聯ニ於テ出立人等運補商運件

本日二十日附普通第九二號電信ニ南シ更ニ同十八日

ソリガニニホスト紙ソフハニス・フカン・リムニヤ氏執筆ノ

在ノ趣旨ノ評論ヲ掲ケタリ

莫斯科科着ニ於テハ多數船運人ノ運補ニ就

ニ外云々トスルコトニ導タリ目下ハ身懸...

在ラトヴィア日本公使館

S 120034

163

歐亞局

第一課

蘇聯外交信



12.1.11

ソキト派ト全然不可解ナル關係ニ置カレタリ... 伯田ニ於テハ今次運補ヲ以テ一、對彼批答企圖ト認メ... 向ノ關係ハ此ノ上餘リニ重キ負担ニ堪エ得サルヘキヲ以テ... 倫敦諸新聞モ亦如ト同様ノ見解ニ傾キ本事件ノ結... 果ハ蘇西兩國間外交關係ノ断絶ニ至ルコトナラザラ保セザル... 一ト為ニ居リ云々

如何等即参考ニ報告ス

在ラトヴィア日本公使館

S 120034

162

171

尚全世流動的ニシテ今後以テ推勢ナルヤ今尚
貝多ニ付カズ拓事件ニ付スル世界ノ輿論ノ
興味ハ極大ニシテ各國ノ折衷ハ多ク相互ニ
予盾スル旨ヲ知通角ヲ証明スルコト困難ナル
各種ノ報章ニ見サレ居リ著者ハ此等
ニシテ且元独逸國國會ニ於ケル國粹者側外交
論者タリシコトハ一ツク教授モ被逮捕者中ノ
一人ナリト報章ニ見真実ニ非サルコト確マレタリ尤モ
今次事件ノ再独逸國ノ又ナル緊張關係カ更ニ著
シク緊張ノ度ヲ増シタコト文ケル論眞実ナリ
然レハ公的破裂及外交關係断絶ニ迄立到トス
ヤト云フモ吾人ノ今日ニ於テハ尚之ヲ有リシトモ
チキモノトニハントス斯ノ如キ破裂ヲ防ケトスル

在ラトツニア日本公使館

S 12U034 164 173

努力ノ存スルコトヲ指示スル後多ク非候存在ス
下林ノホリテ一ヶ紙伯林通信員モ亦伯林
外務省一高官トノ會談ヨリ如キ印象ヲ得居
リ右高官ハ独逸ハ一切ノ過急則措置ヲ辭クヘキ旨
ホ一旦独逸側ニ於テモ蘇聯人ヲ逮捕スルノ指置ヲ
執ルコトヤトノ質問ニ付右ハ何モ意味ナリ他ニ方法
アリト各一々由ニテ向同通信員ハ今次モ蘇聯側ノ
行動ハ在莫斯科科独逸方便館ニ回ケラレタルニシテ
同方便館ヲ以テハハハ及フサバターニシテ關係アリト
有ニシテ蘇聯人民ノ注意ヲ國內ノ諸國新聞ヨリ
外ラサントスルニナルコトノ意見ナリ又独逸人ノ外
ニ独逸方便館又ハ各個独逸人ノ許ニ痛ハレ居
タレ多数ヲ蘇聯人ニ逮捕セラレリトノハラスラーナク

在ラトツニア日本公使館

S 12U034 165 174

オナール・ワイルソン紙、報道に興味アリ
 莫斯科側カ明カニ故意ニ秘密ニ為シ居ル今迄事
 件ニ付吾人今日既ニ充分ノ觀察ヲ下スト
 能ハシ以テ身志知今次燕特ノ行動ハ鮮明
 國內ノ事件ヨリ以テ理下ノ地蘇南各ニ依リ
 條件付テ行ヒ去ルニ在リ印券強マリニナリ
 此ノ故ニ不金世界一ノ大ニ影響カ向テ
 行ヒ居ル譯テ一ニ云ク
 哲行等此等ノ旨ハ新聞者ニ

在ラトヴィア日本公使館

S 120034 166

175



靖海尉室
原書
16.5.0.1
ソクイェト内政系係推
目メモ

寫

16.5.0.1

外務省

昭和11 二三二一四 暗 莫斯科 廿三日後發
 本省 十一月廿四日後着
 有田外務大臣 酒匂代理大使
 第八九六號
 往電第八八七號ニ關シ
 獨逸人技師「シツクリンダ」ヲ含ム被告九名共最終判決トシテ銃殺
 ノ刑言渡サレタル旨二十三日各紙ニ發表セラレタリ二十二日他用來
 訪ノ米國代理大使ハ當地獨逸大使館ニテハ右判決ニ關スル情報ヲ受
 ケ之カ善處措置ニ付大ニ緊張シ居リ殊ニ「ノゾオシビリスク」發閣
 下宛電報第三六號在「キエフ」獨逸總領事本件ニ引込マレ居ル模様
 ナリト語レリ本件ハ蘇獨一般關係ノ現狀ニ鑑ミ且又往電第八八四號
 ノ事件モアリ相當重大化スルニアラスヤト觀測セラル
 「ノゾオ」ヘ轉電セリ

は()

176

S 120034 167

177

靖海尉室
原書
16.5.0.1
ソクイェト内政系係推
目メモ

寫

16.5.0.1

外務省

昭和11 二三二〇一 略 ノゾオ 廿三日後發
 本省 十一月廿四日前着
 有田外務大臣 小柳領事
 第三八號
 往電第三六號ニ關シ
 二十二日午後九名(内一名獨逸人技師)ニ對シ財産沒收死刑ノ判決
 言渡アリ右ハ最終判決ニシテ上告ヲ許サス
 露ヘ轉電セリ

S 120034 168

昭和三十九年十一月廿五日
 原書ハ
 169500 /
 以蘇聯邦内政系係
 寫

昭和卅二 三二六九 暗
 本 省 十一月廿五日前着
 廿四日後發
 有田外務大臣
 小柳領事
 第三九號

二十三日夜他用來訪セル獨逸領事館員ノ談ニ依レハ今回ノ當地陰謀
 事件發覺前後(本月三日)ニ亘リ「ファシズム」宣傳、「テロ」行
 爲使嫉ノ嫌疑ニ依リ莫斯科ニ於テ五名、「レーニングラード」十名、
 「ウクライナ」三名、「アルマアータ」二名、「フルンゼ」一名合
 計二十一名ノ獨逸人技術専門家拘禁セラレ(本事件以前既ニ三十名
 ノ獨逸人拘禁セラレ居レリト言フ)獨逸國內ノ輿論ハ異常ノ「セン
 セーション」ヲ起シ居レルカ殊ニ「シチクリング」カ檢事ノ訊問ニ
 對シ今次ノ事件ニ現「キエフ」獨逸總領事「グロスコフ」ト自分ト
 ノ間ニ聯絡アリタリトノ告白ニ付蘇聯外務部トシテハ獨逸大使ニ對
 シ相當突込ミタル態度ニ出ツヘク蘇側ノ是等被拘禁者ニ對スル出様

外 務 省

S 120034 169

178

如何ニ依リテハ獨逸政府ハ外交關係ノ斷絶モ亦已ムヲ得ストノ強硬
 意見ヲ有シ居レリト言フ
 蘇へ轉電セリ

外 務 省

S 120034 170

179

④

調三

日	月	年
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11
1	0	11

歐亞司

普通第393號

昭和十一年十一月二十五日

在浦潮斯德

總領事 杉下裕次郎



昭和十一年五月五日 接受

別紙添附

B 180

外務大臣 有田 八郎 殿

莫斯科及「レーニングラード」ニ於ケル獨逸人拘禁事件ニ關スル「タツス」報譯報ノ件

本月二十日附當地機關紙ハ莫斯科及「レーニングラード」方面ニ於ケル獨逸人捕縛事件ニ關スル「タツス」ノ公表ヲ發表シ居ルトコロ右ハ襲ニ當地ニ於ケル獨逸人ノ拘禁並追放事件（本年六月十九日附機密第二〇四號後段參照）ノ經緯ニ類似セルモノアルニモ鑑ミ御參考迄右玆ニ譯報ス

本信寫送付先 在「ソヴイエト」聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

S 120034 171

REEL No. A-0341

④

調三

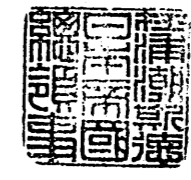
歐亞司

普通第 三九三 號

昭和十一年十一月二十五日

在浦潮斯德

總領事 杉下裕次郎



外務大臣 有田八郎 殿

莫斯科及「レーニングラード」ニ於ケル獨逸
人拘禁事件ニ關スル「タツス」報譯報ノ件

本月二十日附當地機關紙ハ莫斯科及「レーニングラード」方面ニ
於ケル獨逸人捕縛事件ニ關スル「タツス」ノ公表ヲ發表シ居ルト
コロ右ハ曩ニ當地ニ於ケル獨逸人ノ拘禁並追放事件（本年六月十
號後段參照）ノ經緯ニ類似セルモノアルニモ

本信照合票挿入先

門	類	項	目	號
6	5	0		✓

「ソヴェエト」聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

蘇俄外交事務局長
別紙添附

昭和十一年三月五日 接受

S 120034 171

180

蘇聯邦ニ於ケル獨逸「フアシスト」ノ犯罪行爲

一九三六年十一月二十日赤旗紙

本年十一月初旬蘇聯邦内務人民委員部ハ莫斯科及「レーニングラ
ード」ニ於テ蘇聯邦ニ有害ナル反國家的事業ヲ行ヒ居タル若干名
ノ獨逸人ヲ捕縛セリ、

右捕縛セラレタル獨逸人ハ「フアシスト」細胞組織ヲ企圖シ之ニ
蘇聯邦人ノ參加ヲ歡誘シ蘇聯邦人間ニ「フアツシヨ」宣傳ヲ行ヒ
非合法ニ其ノ文獻ヲ頒布シ且重大ナル國家ノ機密ニ屬スル情報蒐
集ニ努メ以テ外國ノ利益ノ爲ニ軍事諜報ニ從事セルモノナリ、
加之捕縛セラレタルモノノ中或モノハ國營工業施設ニ於テ破壊的
作業ヲ實施セントシ且蘇聯邦政府ノ指導者ニ對スル「テロ」工作
ニ從事シタリ、

右捕縛セラレタルモノノ中ニハ獨逸臣民ニシテ「フアシスト」黨
員ナル「クレイン」外十名（氏名略）アリ、目下取調中ナリ、
右ニ關聯シ獨逸代理大使「テイベリスキルヒ」氏ハ襲ニ其ノ要望

在浦潮日本帝國總領事館

シタル資料（拘禁者ニ對スル起訴ノ根據タル刑法上ノ當該條項ニ
關スルモノ）ヲ「クレステインスキー」外務人民委員代理ヨリ受
領スルトコロアリタルカ同代理大使ノ抗議ニ對シテハ「クレステ
インスキー」氏ハ一九二五年ノ移住ニ關スル蘇獨協定ノ規定スル
總而ノ要式カ蘇聯邦政府ニ依リ履行セラレ居ル點ヲ指摘シテ之ヲ
一蹴シタルカ昨日獨逸大使「フォン シューレンブルグ」氏ハ「
リトヴィノフ」外務人民委員ニ對シ被拘禁者ニ提起セラレタル公
訴事實ニ付更ニ説明ヲ求ムルトコロアリ、右ニ對シ「リトヴィノ
フ」氏ハ被拘禁獨逸人ノ一人一人ニ付其ノ起訴罪狀ヲ陳述シ其ノ
大部分ハ「フアツシヨ」機關ニ屬シテ蘇聯邦市民ニ對スル「フア
ツシヨ」宣傳ヲ行ヒ其ノ文書ヲ頒布シ或モノニ至リテハ軍事諜報
ニ從事シ且「テロ」準備工作ヲ行ヘルモノスラアリ、大部分ハ其
ノ罪狀ヲ承認シ居レリト爲セリ
尙右ニ際シ「リトヴィノフ」氏ハ蘇聯邦政府トシテ合法的目的
ヲ以テ來蘇スル獨逸人ニ對シテハ縱令「フアツシヨ」的見解ヲ保

在浦潮日本帝國總領事館

持スルトモ之カ入國ヲ拒否スルモノニ非スト雖モ蘇聯邦内ニ於テ「フアツシヨ」的組織ノ存在ヲ許容シ其市民ニ對スル「フアツシヨ」宣傳ヲ認ムルカ如キ況ンヤ諜報又ハ「テロ」工作ノ如キハ之ヲ許容シ能ハサルハ勿論ニシテ、斯ル組織ヲ發見シタル上ハ國家ノ安全ヲ委任セラレタル機關ニ於テ必要ノ措置ヲ執ラサル可ラス獨逸言論機關ノ發表スルトコロニ依レハ各國ニ組織アル獨逸ノ「フアツシヨ」國体存在シ其ノ事業カ獨逸ニ在ル一ノ中心機關ニ依リ統一指導セラレ居ルコト明ラカナルノミナラス多クノ國ニ於テハ此等組織カ單ナル黨務事業以外當該國家ノ法律ニ背反シ居ルコト明白ナル次第ナルカ蘇聯邦ハ自國內ニ於テ斯ル現象ヲ認容シ得サルモノナリ、今次ノ拘禁ハ何等國際政治問題ト關係アルモノニ非ス又蘇獨間ノ相互關係ニ關係ヲ有セス、只取調ハ急速實施中ナルニ付捕縛セラレタルモノノ中ニ無辜ノモノアル場合ハ釋放セラシル可キハ勿論現ニ被拘禁者中ノ二名ハ「フアシスト」黨員ナルモ其ノ行爲ニ付重大ナル罪狀ナキヲ以テ取調機關ニ於テモ近日中之

在浦潮日本帝國總領事館

S 120034 174

183

ヲ釋放シ國外ニ追放スル意嚮ナルモノノ如シト述ヘタリ、獨逸大使ハ被拘禁者ノ罪狀ニ疑問ヲ表現シタル上多數ノ國家ニ於テ「フアツシヨ」機關ノ存在スルハ事實ナルモ蘇聯邦ハ例外ニシテ同聯邦内ニハ「フアツシヨ」機關存セスト聲明セル處右ニ對シ「リトヴィノフ」氏ハ獨逸「フアシスト」ノ蘇聯邦ニ對スル態度ヨリ推シテ蘇聯邦ヲ例外トセル理由ヲ了解スルコトヲ得サル旨答ヘタリ（タツス）

在浦潮日本帝國總領事館

S 120034 175

184

原書
6.5.0.1
蘇聯邦内政
係維幕在リ

寫

昭和11 二三四六二 平 莫斯科 廿六日後發
本省 十一月廿七日前着
重光大使
有田外務大臣
第九〇五號
往電第八九六號ニ關シ
蘇聯邦中央執行委員會幹部會ハ獨逸人技師他二名ニ關スル減刑訴願
ヲ聽許シ其ノ結果夫々十年ノ禁錮ニ處セラルルコトナレルモ他ノ
六名ノ請願ハ却下セラレ夫々銃殺刑ノ執行ヲ了シタル旨二十六日ノ
各紙ハ報道シ居レリ
「ノヴォ」ニ轉電セリ

外務省

S 120034 176

185

日勝防共協定
支海軍特務海軍
車
第八八號
11.9
11.11

門20項0目 (R1)

昭和11 二三四六一 暗 武府 廿六日後發
本省 十一月廿七日前着
來柄大使
有田外務大臣
第九八號
二十五日當地獨逸公使館參事官ハ好富ヨリ「ロカルノ」關係情報ヲ
求メタルニ對シ前後三回ニ亘リ英國政府ノ關係國宛「ノート」寫貸
與ヲ約シタルカ其ノ際内話トシテ
「先般來「リッペントロップ」ヨリ「ポールドウイン」ニ對シ日獨
協定ノ内容ヲ說明シ英ノ誤解一掃ニ努ムル一方「スチックリンダ
事件ニ關シ蘇カ死刑執行ヲ爲サハ獨ハ蘇ト國交斷絶スヘシトテ英
ヲシテ蘇ニ對シ死刑執行阻止方運動セシメ居リタル旨
ニ獨ハ萬一蘇側拒絕ノ場合直ニ對蘇斷交ヲ爲スノ意思アリヤトノ質
問ニ對シ極祕ノ御含ト冒頭シ蘇側ハ歐洲全局攪亂ヲ目標トシ頻リ
ニ「プロボケーショ」ヲ試ミツツアルモ實ハ獨蘇貿易ハ特ニ本

外務省

S 120034 177

186